1. 評価結果概要表

作成日　平成21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3470202569
法人名	株式会社　松広
事業所名	グループホーム舟入
所在地 (電話番号)	広島市中区舟入川口町17番10号 (電　話) 082-296-6633

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	734-0007　広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年01月26日

【情報提供票より】(　20　年　12月　1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成　13年　2月　1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	18　人	常勤 16　人, 非常勤　2 人, 常勤換算　11.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄筋コンクリート　造り	
	7 階建ての　2～　3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	56,000-61,000　円		その他の経費 (月額)	実費　円
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無 (　0　円)		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	円

(4) 利用者の概要(　8月　20日現在)

利用者人数		18 名	男性　2 名	女性	16 名
要介護1		2　名	要介護2	3	名
要介護3		6　名	要介護4	5	名
要介護5		2　名	要支援2	0	名
年齢	平均	82	最低　66 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	もりお内科、もちもちの木歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所では、地域の生活圏にある商店や高校･保育園等と関係を持ちながら、入居者一人ひとりが多機能性を活かした柔軟な支援の下で、理念である「その人がその人らしく生き生きと暮していく為の、自立支援、自己選択」の実現化に向けて支援に取り組んでいる。管理者と職員は、日々の実践が理念にもとづいたものになるように、常日頃から何を大切に入居者に向き合うかを、日々の中で話し合いや確認を繰り返しており、具体的なケアについて意見の統一が図られている。家族や地域との関係も良好であり、例えば年3回開催されている家族会時に行われているバザーや作品展、花火大会等には、近隣の多くの方々が参加しながら関係を深めている。また、入居者一人ひとりの過去の経験を活かした支援により、ホーム全体が家庭的な雰囲気であり、入居者の方々の落ち着いた生活振りが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4) 前回評価での改善課題は特になかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4) 自己評価の目的や活用方法については、職員全員がよく理解されて取り組んでいる。また、自己評価が形骸化しないように、運営者や管理者から評価に積極的に取り組み、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が伺えた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4.5.6) 運営推進会議は、家族会代表、地域住民の代表者として民生委員、地域包括支援センターの職員等、幅広い立場の人が積極的に参加しながら、事業所側からの報告とともに参加者から多くの率直な意見をひきだし、改善にむけた具体的な取り組みにつなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映 (関連項目:外部7, 8) 年に3回開催されている家族会の場や、運営推進会議等を通じて得られた意見や要望等は、ミーティングで話し合い、課題を検討し、質の向上につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3) 入居者一人ひとりの「望む暮らし」のニーズに対して、事業所の生活圏の中にある高等学校や幼稚園、地域の行事などに積極的に参加しながら、ニーズの実現を目指している。

2. 調 査 報 告 書

2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

（　　部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のなかでその人らしく生活することを支えることを謳った、理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や職員研修等のあらゆる機会を通じて、話し合いや確認をしながら理念を共有しケアの意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩コースの途中にある高等学校に出かけたり、保育園のお茶会に誘われたり、あるいは自治会のお祭りに職員とともに積極的に参加しながら交流を深めている。また、近隣の小学生が下校時にホームに立ち寄ったり、ボランティアとして活動しに来てくれるなど、地域との交流がある。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通して、改善に向けて具体案の検討や実践につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者から多くの率直な意見などを得ながら、サービスの質の確保に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が認知症アドバイザーとしてサポーター講座に講師として出かけ、行政の担当者と交流したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には声をかけ、入居者の状況や家族のむことについて話し合っている。他に、毎月手紙などで様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から得られた意見や苦情等は、家族等の立場に立った説明を行っており、また、課題を検討し質の向上につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へ	離職者はあまりいないので、馴染みの職員による支援が出来ている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年一回外部からスーパーバイザーを受け入れて、一週間程度の研修を行っている。 新人には採用時と半年後に研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内同業者のネットワークに参加、交流し、質の向上を図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、事前に利用者の生活や健康状態を把握し、家族の要望や相談等を聞き、理解や同意を得てその人に合った個別のケアに取り組み利用者の視点に立って支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の能力に応じて掃除や料理を手伝ってもらい、また知恵を借りるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援の基本は、常に本人はどうかという視点に立って家族や全職員が話しあって、必ず本人の意向を大切にしながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員全員の会議を毎月開き、その中でカンファレンスも行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常日頃から、全職員で新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認しながら、実情に即した、あるいは変化の予防に対応していくための介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの入居前の受診の経過、現在の受信の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて家族会の場や、できるだけ早い段階から家族等に説明をしている。		
Ⅳ, その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の職員会議で言及し、意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、特定の入居者に職員をつける「わくわく体験」採用し、個別対応の試みを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	春夏は、屋上で一緒に育てた野菜を食卓に並べて美味しくいただいたり、メニューを入居者と相談しながら決めようにしながら、食事を楽しむことのできる支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の希望に沿って対応している。 特に拒否等あり必要な時は、職員も一緒に入ることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、台所仕事、掃除、生け花、抹茶など、入居者の好みに合った仕事を依頼している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ外出に努め、天気の良い日はお弁当を持参して、近所の公園などで昼食会を楽しむこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出ていく気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーで、鍵をかけない安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、消防署直結の緊急電話の掛け方、避難訓練、消火器の使い方などの訓練等を定期的に行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事･水分の摂取量を記録し、水分摂取の少ない方には個別の工夫を試みている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の準備をしていると、まな板の音や料理の匂い等が部屋に伝わり、自然と食堂に集まってこられる居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手作りカレンダーを飾ったり、仏壇を設置したりして自宅との違いによる不安やダメージを最少にする工夫がなされている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名　　グループホーム舟入

評価年月日　　２００８年　１２月　　１日

記入年月日　　２００８年　１２月　　１日

※この基準に基づき，別紙の実施方法
　のとおり自己評価を行うこと。

記入者　　職　　管理者　　氏名　　松本　繁子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念の基づく運営				
1　理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして，事業所独自の理念をつくりあげている。	当事業所の理念の基本はその人がその人らしく生き生きと暮らしてゆく為の、自立支援、自己選択である。 地域の中で共に暮らすための基本でもある。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は，理念を共有し，理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の職員会議・職員研修・新人研修の際、理念を日々の介護に生かす（自立支援・自己選択）事を話している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は，利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を，家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	新聞等で家族・地域に発信している。		
2　地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は，隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり，気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方と道の往来等挨拶をかけ合っている。 作品展バザーの家族会時、産直野菜を買ってもらったり、作品を見てもらったりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として，自治会，老人会，行事等，地域活動に参加し，地元の人々と交流することに努めている。	近所の高校・保育園へ行事の際出かけて行き、自治会主催祭・盆踊り等にも参加している。 公民館まつりに出かけたりする。 小学生が学校帰りに立ち寄ったり、ボランティアとしてチームでダンスを見せてくれたりする。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に，事業所や職員の状況や力に応じて，地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い，取り組んでいる。	認知症サポーター１００万人キャラバン事業等の「認知症サポーター講座」として地域に講師として出かけている。		
3　理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者，管理者，職員は，自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し，評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をすることにより自事業所を改めて見直し、職員研修・新人研修に生かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実施した事業・サービスを報告することにより、各委員から意見をいただく。グループホーム独自では考えつかないアイデアをもらっている。		
9	○市町との連携 事業所は，市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり，市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	前記キャラバンメイト事業に参加することにより、区担当者と話し合う機会ができた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等で学ぶ機会を得ている。必要としている方へ学んだ知識をお伝えしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	職員会議等で虐待について職員間で話し合い日頃気付きにくい「言葉の虐待」等への注意を払うことの意識統一を図っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4　理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は，利用者や家族等の不安，疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は利用者・家族に納得いただくため本文を読み上げ理解いただいている。解約の際には上記と同じくご理解いただくべく努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらの運営に反映させている。	常に利用者に意見を聞き運営（ケア改善）に役立てている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態，金銭管理，職員の異動等について，家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月近況報告として利用者さんの健康・日頃の暮らしぶり近影としての写真を送っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見，不満，苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	苦情等受け付け、外部（中区介護保健室・国保連）へ申し立て出来るよう重要事項に表記している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	月々の職員会議に於いて職員の意見を吸い上げている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化，要望に柔軟な対応ができるよう，必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	可能な限り職員の勤務をだぶらせたりして、病院受診等に役立てている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は，利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし，代わる場合は，利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	常に馴染みの職員による支援のために、勤務シフトを考えている。離職者はあまりいない。		
5　人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は，管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしてくことを進めている。	毎年一回外部からスーパーバイザーを要請。一週間程度研修している。新人研修を採用時に、確認研修として６ヶ月後共に行っている。 月一回職員ミニ研修をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は，管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県・グループホーム協会・グループホーム・通所対象　ぼちぼちネットへ入会・活動参加交流、質の向上を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は，管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	月１回職員会議を兼ねて意見交換会を持っている。ストレスやケアに行き詰まって困惑している人に随時向き合って話を聞いている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員一人一人に利用者を担当してもらい、その人のニーズや身の廻りの世話をしてもらうことによりケアの質の向上を図るためケアプランのベースを作ってもらっている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること，不安なこと，求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり，受けとめる努力をしている。	入所前の面接により、不安なこと・求めていること等を聴く機会を持っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること，不安なこと，求めていること等をよく聴く機会をつくり，受け止める努力をしている。	入所前施設見学をいただき、利用内容等の説明と共にご本人のことご家族の思い等を聞いている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に，本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	上記時、ご本人の要望・家族の要望を必ず聞いている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し，納得した上でサービスを利用するために，サービスをいきなり開始するのではなく，職員や他の利用者，場の雰囲気に除々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所された当座、ベテラン職員が付き添い、ホームに馴染まれるまでコミュニケーションをとる。		
2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場におかず，一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし，本人から学んだり，支えあう関係を築いている	掃除・料理作り等その人の能力に合わせたお手伝いをいただき、その間その方の知恵を教えていただく。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場におかず，喜怒哀楽を共にし，一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族会を持ち、家族間の思いを話し合っていただく。又来所の折も家族の喜び哀しみを聞かせてもらっている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め，より良い関係が築いていけるように支援している。	家族来所の折はその方の部屋でゆっくり話していただいている。家族会を開催することにより家族との交流を密にしてもらっている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	家族はもちろん元住んでいた近所の方・友人が来られた時、部屋でゆっくり話をしてもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるように努めている。	気の合った仲間を大切にゆっくりと交流する場所の確保。また、支え合う気持ちを大切に自分がこの人の世話をしたいとの思いを大切にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても，継続的な関わりを必要とする利用者や家族には，関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所して他所におられる方を訪問したり、亡くなられた方の墓参をするなど関係を大切にしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1　一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	本人の意向を大切にしている。暴言等では対応困難等多々あるが職員が一緒になって本人の意向を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に家族から生活歴等の情報を得ているが、本人からも一緒に生活しながらあらゆる場面でこれまでのくらしを教えてもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録（ケース記録）の中に、心身状態を時経過で記録しており、出来ることの把握を総合的にしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	スタッフ全員で月１回利用者一人一人についてカンファレンスを開きご家族・ご本人の希望を聞きケアプランを作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに，見直し以前に対応できない変化が生じた場合は，本人，家族，必要な関係者と話し合い，現状に即した新たな計画を作成している。	本人・家族の要望をもとに介護計画をたてている。見直しは３ヶ月であるが、変化が見られる時随時たてている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を個別記録（ケース記録）に克明にしている。（記録用紙を独自のものを作り使用している）この記録を共有し、またケアプラン作成に向けて職員一人一人が自分の持っている情報を反映している。		
3　多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況，その時々の要望に応じて，事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人の要望に応えるためにも担当者を決め、細かな要望、室内の整理、体調管理等に気を配っている。		
4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて，民生委員やボランティア，警察，消防，文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営委員会に民生委員の方達に出席願い色々な知恵をいただいている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて，地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い，他のサービスを利用するための支援をしている。	ボランティアによるフルートコンサート・訪問理美容の利用		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて，権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について，地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと連携を図っている。適切なアドバイスをいただいている。 地域の認知症を支える活動は共にしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医と既になじみの関係にあり、個人別体調も把握されており信頼関係にある。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら，職員が相談したり，利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医に受診している。 脳神経外科医であり指示助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら，日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職の職員に内部の健康管理をしてもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは，そうした場合に備えて連携している。	見舞いに行ったり家族と連絡を取り合い退院カンファレンスを一緒に受けている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について，できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化に伴う意志確認書を作成 家族会等機会に事業の対応しうる最大のケアの説明をしている。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために，事業所の「できること・できないこと」を見極め，かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは，今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	あらかじめ当事業所が「できること、できないこと」を家族に提示し、了解のもとに終末ケアに取り組んでいる。家族の希望を第一としている。かかりつけ医と連携は密にしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際，家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い，住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	退所サマリーを作成。他諸書類と共に手渡している。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1　その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応，記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	月１回職員会議ではご本人の尊厳にかかわる声がけ（プライバシーにも配慮した）対応等の意識向上を図っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり，わかる力に合わせた説明を行い，自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人一人を尊重、自己決定（トイレ・口腔ケア等）を大切にしている。 職員の一方的な決め事を押しつけない。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	一人ひとりの体調に合わせて買い物や散歩に誘っている。 その方の気持ちにそうようにしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し，理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	① 本人が選んでもらったり、あらかじめ用意（選べない人）したものを着ていただく。その後職員がコーディネイトをする時もある。 ② 散髪はボランティア（有料）に来てもらいしている（それぞれの好みの髪型に）		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	利用者と一緒に育てた野菜が食卓に並ぶ。 メニューは相談して決める。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒，飲み物，おやつ，たばこ等，好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ時に好みの飲み物や好みの物をそれぞれの人に嗜好にそって差し上げている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣を把握しトイレ誘導をするが、その際ご自身のご意志を大切にし再度声がけしてトイレでの排泄への援助をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに，一人ひとりの希望やタイミングに合わせて，入浴を楽しめるように支援している。	利用者のその日の希望を確認して入っていただいている。服を脱ぐことを嫌がる方には職員も一緒に入る。行動を共にすることでその気になっていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼食後午睡をすることで身体的休息をしていただいている。夜間寝付けない時は添い寝したり温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをして穏やかな安心の時間を共有し安眠への支援をしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割，楽しみごと，気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，楽しみごと，気晴らしの支援をしている。	個々人の好みに合った仕事をお願いしている。 例：畑仕事・台所仕事・掃除・生け花・抹茶を点てる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	紛失をしたり、仕舞い忘れによるトラブルを避けるため、小遣いを預かる場合もあるが、立て替え払いが主である。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援している。	車イスの方であってもローテーションを作って戸外に出かけていただく支援をしている。 天候の良い日は外（例：公園等）での昼食会もある。		
62 63	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに，個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族会で戸外に出かけたり、普段の家族との外出は自由にしてもらっている。お誕生日の方を植物公園にご一緒したり、日常的にも喫茶店でコーヒーを飲んだり気分転換を図ってもらっている。 希望があれば電話をかけてもらっている。家族からの電話へは出てもらっている。 家族から手紙とか品物が来た時は手紙を書いてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族，知人，友人等，本人の馴染みの人たちが，いつでも気軽に訪問でき，居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問いただける時間規制はなくいつでもどうぞと説明している。ご訪問時は各個室でお茶など差し上げ、久しぶりの家族の団らんの時を過ごしてもらっている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員は権利擁護・身体拘束について理解しており（勉強会等）自覚しない身体拘束等へも共有認識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が，居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており，鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関には鍵をかけていない。 出入りはセンサーが鳴るようにしてあるが、ドアを開けっ放しにしている時もある。 外出される方の後を判らない様について歩いたこともあった。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら，昼夜通して利用者の所在や様子を把握し，安全に配慮している。	職員と利用者との空間は同一（リビングで一緒）であり、行動を把握しやすい。 夜間も居室の音が聞きやすくすぐ訪室可能である。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく，一人ひとりの状態に応じて,危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁・はさみなど普段目につきにくい所に保管しているが、必要があればいつでも使用してもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒，窒息,誤薬,行方不明,火災等を防ぐための知識を学び,一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒヤリハットを記録し職員間の意識統一を図っている。一人ひとりの予測される危険性（誤嚥・転倒等）についていつも話し合い対策をしている。 誤薬防止に個々に日々の仕訳をし、透明なチャック付収納袋に入れ日付・氏名を記入し、飲み間違えない様にしている。 飲み込みの悪い方には食事形態を工夫し提供している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え,全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	職員会議等で勉強会を持ち実際に体験・体得をした。 実際その事で大事に至らなくて済んだ事例がある。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対対策 火災や地震,水害等の災害時に,昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け,日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署と連携を図り、緊急電話（消防署直結）のかけ方練習、避難訓練・避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を定期的にしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し,抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族会でリスクについての話し合いを持ち、職員の努力の範囲を超えたところに転倒や圧迫骨折等の危険性のあることを説明、理解いただいている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め,気付いた際には速やかに情報を共有し，対応に結び付けている。	各人の持病留意事項を職員間で共有しており、食欲・顔色・様子の変化の見られる時はバイタルチェックを行い、医師受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は，一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的・副作用・用法を記入したシートを作っており情報を共有している。症状変化時は時をおかず医師に連絡処方を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は，便秘の原因や及ぼす影響を理解し，予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	散歩・園芸等で身体を動かす事による便秘解消を図っている。また、自分の意思で行動ができない方など時間を見てポータブルに座っていただくことにより自然排便をしてもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを全員にしてもらっている。声がけ・見守り・介助等職員はその人の力に応じてお手伝いしている。口腔ケアが肺炎を予防することを勉強会で伝えている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取状況を毎日記録している。 水分摂取についても把握している。 水分量が少ない方には色々工夫して摂っていただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。（インフルエンザ，疥癬，肝炎，ＭＲＳＡ，ノロウィルス等）	感染症に対するマニュアルを作成。全職員で学習・予防をしている。ノロウィルス等感染症対策備品の備え付けをしている。 インフルエンザ予防接種（利用者・職員全員）を受けており、ペーパータオルを使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛星管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・ふきんは毎晩漂白している。冷蔵庫の清掃、食材の残り点検をし食品の買い出しに出かけている。		
2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	入り口に手作りの案内板がある。 季節の花を生けており、プランターの花の水やりを楽しみにしている利用者がある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	まな板の音、みそ汁の香り、五感を刺激する空間を大切にしている。 季節の花がある。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの好みの場所があり、仲良し３人組でソファーにいつも座っていたりする。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真（家族・本人）を飾ったり、手作りカレンダーなど個人個人個性あふれる部屋となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め，温度調節は，外気温と大きな差がないよう配慮し，利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入れ換えを常に図っており、夏・冬等午睡・夜睡時にはリビングとの温度差がない様あらかじめエアコンを入れた後、３０分後消す等体調への影響を配慮している。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	風呂場・トイレに立ち上がり移動が出来る様又リビング等も少しでも歩いていただいて機能保持回復につながる様手すりがある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして，混乱や失敗を防ぎ，自立して暮らせるように工夫している。	お一人おひとりの状態により混乱される部所を職員は共通認識しトイレを探し回られている様であったらさりげなく声がけをし誘導する。 ※目印等があっても目に入らない場合がある		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり，活動できるように活かしている。	玄関先・ベランダに季節の花野菜を植えており、水やりを一つの活動とし、楽しんでもらっている。 屋上にミニ菜園作りを皆さんでしてもらい、季節の野菜が食卓にのぼるのを喜んでいる。		